



海事博物館所蔵ポスターの再整理と近現代における 商船広告 : その2 : 仲島忠次郎コレクションの補遺 およびその他資料

菊地, 真

(Citation)

海事博物館研究年報, 53:40-43

(Issue Date)

2026-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100504883>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100504883>



海事博物館所蔵ポスターの再整理と近現代における商船広告 ～その2：仲島忠次郎コレクションの補遺およびその他資料～

神戸大学海事博物館専門員 菊 地 真

1. はじめに

前号において、「仲島忠次郎コレクション」（以下、仲島コレクションと略）を中心とした当海事博物館所蔵のポスターについて資料紹介を行った。その後、過去に登録されたポスターとの突き合わせを行い、仲島コレクションおよび大学関係、その他既登録のポスターについて点数の確定作業を行った結果を改めて報告する。

そのため本稿のタイトルは変更せず、前号の補遺として位置づける。

2. 仲島忠次郎コレクションについて

仲島コレクションは仲島忠次郎氏（1902～1982?）が集めた商船関係のパンフレット等のコレクションである。仲島氏は生前の取材記事から、1902（明治35）年生まれ、戦後はおもに鎌倉に居住し、1982年までは少なくともご存命であった。かつて当館の樋口元巳氏が「仲島忠次郎氏の蒐集箱」（文献1）、「中嶋忠次郎コレクション再説」（文献3）として紹介している通り、船への強い興味関心から、船に関する案内パンフレット、絵葉書、乗船券、ポスターなど、あらゆる資料を収集し続けた。仲島氏本人が“紙屑屋”と自称した通り、他人から見れば紙屑のような包み紙の類までも捨てずに残したが故に、比類なき商船資料群として今日の評価がある。

生前、神戸商船大学教授の松木哲氏を介して神戸商船大学海事資料館に寄贈されたと言われ、仲島氏が最晩年の1976年頃に資料を一括して寄贈したと推測される¹。

3. 再整理の方法

仲島コレクションの確認と再整理は前回も述べたように、文献5のリストに従って保管してある現物を確認し、文献2とも対照させながら作業を行った。目録の作成、データ入力とスキニングを行っている。

文献5の作業の際に、海事博物館で個別に収蔵されてきたポスター数十点が仲島コレクションと混同されて、文献5のリストに含まれたと思われる、今回判明する限り分け直した（国内の海事関係の博覧会・展示会ほかのイベント、神戸商船大学のイベント、その他海事関係のポスター）²。

また2025年度に当館収蔵庫に図書類保管用のマップケースを新たに購入しており、整理済みのポスターは混在しないよう収納し直した。

表1 海事博物館所蔵のポスターの概略

主な分類	件数			備考
	総数	仲島	ほか	
大阪商船（JOS）	54	51	3	
商船各社（JOT）	44	29	15	* 1
関西汽船（JKN）	98	94	4	* 1
東海汽船（JTK）	17	5	12	
官公庁他（JGV）	54	0	54	
海外船社（FSC）	89	79	10	
航空関係（PST）	28	28	0	
大学関係	39	0	39	* 2
合計	423			

※分類の符号は文献5に準拠した。* 1は前回から数を修正した。* 2は前回未報告のもの。

1 仲島コレクションの海事博物館（当時は神戸商船大学海事資料館）への寄贈時期は、横浜海洋科学博物館「博物館しんぶん」（170号、1976年8月25日）の記事、「仲島コレクションの寄贈先が決る！」において、「このたび一括して神戸商船大学海事資料館に引き取られることになりました。」とある。本記事の時期と資料の年代の上限から、海事博物館への寄贈は1976年と推測される。

2 但し文献5で付与した登録番号はそのままとし、当館DB番号と重複するものは目録に注記をした。これは当博物館での管理上、台帳の登録番号で検索し現物と対照できれば良いためであり、番号の統一といった作業はあえて行っていない。

4. ポスターの特徴

概要 2025年3月までに再確認したポスターの総件数は423件である³。

表1に従って順に述べていく。大阪商船(JOS)はほぼ仲島コレクションである。3件は博物館DBに登録されている。

商船各社(JOT)は29件が仲島コレクションである。近海郵船、摂陽商船、日本海汽船ほか、大半は戦前のポスターである。数点、戦後国内の

フェリーなどがある。15件中10件は2025年に新規登録した。主に「にっぽん丸」「ばしふいっくびいなす」といったクルーズ船のポスターである。

関西汽船(JKN)は仲島コレクションが94件、博物館DBが4件である。いずれも1970年代までのポスターである。

東海汽船(JTK)は仲島コレクションが5件、博物館DBが12件。年代は特定できていないが、主に1960～1970年代から構成されると推測してい



図1 ポスターの例(アラブ連合航空・オランダ航空・ハワイ航空)



図2 ポスターの例(ルフトハンザ航空・日本航空)



図3 ポスターの例(中華航空・CATHAY PASIFIC:右端)

3 表1のポスターの数は、タイトルに基づく件数とした。同じポスターを複数枚ある場合は1件として数え、目録上に枚数を記録している。

る。

海外船社（FSC）は仲島コレクションが79件、博物館 DB が10件で、3 件を2025年に登録した。なお内容から見て仲島コレクションの5 件は航空会社や鉄道会社のポスターである（KLM、カンタスなど）。博物館 DB の2 件は神戸港振興協会のポスターで、内容的には官公庁他にあたる。

航空関係（PST）はすべて仲島コレクションで28件である。UNITED ARAB AIRLINE アラブ連合航空（現在のエジプト航空）、KLM オランダ航空、ハワイ航空、ルフトハンザ、中華航空、CATHAY PACIFIC、CANADA PACIFIC、BOAC 英国海外航空、カンタス航空である。ほかに日本航空が2 点あり、海外向けのポスターである。航空機のポスターは、画面全体に発着地いずれかの景観写真、あるいはイラストほかを配置し、社名を上か下に大きめの文字でデザインする形式がほとんどで、デザインとしてはシンプルなものが多い。

アラブ連合航空は、地元エジプトを古代エジブ

ト文明の遺物で表象するものと、行き先のインドや日本をデザインしたポスターとがある。オランダ航空は飛行機の写真かイラストである。ハワイ航空は現地ハワイの写真で、右下に「ハワイ諸島めぐりはハワイ航空で」と日本語文があり、日本向けのポスターと分かる（図1）。ルフトハンザは、行き先のロンドン、ドイツ、パリなどの景観写真を全面に印刷して旅先のイメージを喚起している（図2）⁴。

中華航空は台湾（中華民国）の航空会社で、行き先のアメリカを景観写真で PR するものと、台湾を景色や民族衣装などで外国客向けに PR するものがある。CATHAY PACIFIC は香港の航空会社。ポスターは欧米人が主役で、漫画の一コマのように写真とセリフを配して航空旅行を宣伝する（図3）。

ほかに CANADA PACIFIC、BOAC 英国海外航空のポスターが1 点ずつある。カンタス航空は海外（FSC）に入っているがタヒチ行きのポスターとなる。どの航空会社のポスターも、年代の



図4 ポスターの例（海洋博覧会、大阪世界帆船祭、水産祭；共に文献5より。神戸商船大学開学記念祭・1956年）



図5 ポスターの例（神戸商船大学開学祭1970年・1979年・2003年、神戸大学深江祭2004年）

4 京都dddギャラリー第244回企画展「アイデンティティシステム：1945年以降 西ドイツのリブランディング」2024年10月24日（木）～01月13日（月）に同種のルフトハンザ航空ポスターが出品され、1960-70年代と紹介されている。

<https://dnpfc.jp/gallery/ddd/jp/00000834>（みすず工房：北村ひとみ氏による紹介。<https://misuzukobo.jugem.jp/?eid=2867>）

明らかな例は少ないが、主に1960-1970年代と見られる。

官公庁他（JGV）は仲島コレクションとして文献5に記載されるが、ほとんどが博物館DBと重複して登録されており、作業時に以前からあった所蔵ポスターを仲島コレクションのポスターと一緒に登録作業してしまったと推測される。計54件で、1975年の沖縄国際海洋博覧会、1983年の大阪世界帆船祭り（osaka world sail）、水産祭といった博覧会やイベントのポスター、海王丸などの帆船のポスターが多い（図4）。一部に神戸商船大学の学生募集や開学祭のポスターも含まれる。官公庁他はもともと商船会社以外の雑多なポスターを一括りにしており、まとまりに欠ける。ただ戦後1960年代後半以降、博覧会、展示会、お祭りでは海をテーマにした催しが頻繁に開催されるようになり、ポスターが宣伝媒体として有効に用いられていた様子がうかがえる。

大学関係は文献5では扱われておらず、博物館DBにのみ登録されている資料となる。一部は官公庁他として文献5で紹介されている。計39件のうち以前からの収蔵資料は32件で、5月の開学祭（現在の名称は深江祭）のポスターを主とし、カッター競技大会などが一部含まれる。7件は2025年に新規に登録した。すべて深江祭のポスターである（図5）。

なお深江祭の名称は、1966年、1971年のポスターに用いられた例があるが、現在に続くのは、神戸商船大学が神戸大学と統合した後、2004年5月に初開催された神戸大海事科学部の学園祭を「深江祭」という名称にしたのが始まりである⁵。

5. おわりに

今回は文献5で紹介されていない航空会社のポスターの内容と、官公庁他や大学関係のポスターを中心に概要を紹介した。

大学関係では、深江祭や当館企画展のポスターを継続的に収集しており、クルーズ船などのポスターは近年別に寄贈された資料もある。機会を見て紹介してゆきたい。

（菊地）

参考文献

- 文献1：樋口元巳（2001）「仲島忠次郎氏の蒐集箱」『海事博物館研究年報』29、pp.6-8
文献2：神戸大学海事科学部海事博物館専門委員会編（2005）『仲島忠次郎コレクション目録』神戸大学海事科学部海事博物館、261p
文献3：樋口元巳（2003）「中嶋忠次郎コレクション再説」『海事博物館研究年報』31、pp.10-13
文献4：石田憲治（2005）「仲島忠次郎コレクション」『海事博物館研究年報』33、pp.9-12
文献5：神戸大学海事科学研究科海事博物館専門委員会編（2009）『海事博物館企画展図録2009』神戸大学海事科学研究科海事博物館

5 「第1回「深江祭」開催 統合後初の学園祭」2004年5月23日記事（神戸大学新聞；神戸大学ニュースネット委員会NewsNetによる）